

槐

かい

岡井省二創刊

令和3年12月号

令和三年十一月一日発行 第三十一巻第十二号
平成三年九月十八日第二種郵便物認可
消費税一六六号（毎月一回一日発行）



大根干す

高橋将夫

聞いて見て触れて弾けし鳳仙花
鬼気迫るとは蟋蟀の笑ひ顔
今にして思へば月夜茸だつた
どれも皆毒の茸に見えてきし

流れ星流るる先の涅槃かな
台風になる極楽の余り風
鷹の目が捉へてをりし核弾頭
鴟の贅場所を移してやりにけり
葛藤の末の秋天なりしかな
葦刈りて今日一日の広さかな
余生まだ大根を干す時間あり

日月抄

高橋将夫 推薦

黎明の露それぞれに真あり
 鰯雲人魚になりてもぐりけり
 鰯雲宇宙の網は大漁なり
 わが居場所ありしと思ふ花野かな
 青蜜柑酸っぱい口が物を言ふ
 鍬の柄を立つれば止まる赤とんぼ
 金蚤に今夜泊めたと頼まるる
 露光る一瞬の生を全うす
 A R I G A T O の言葉の重し夏惜しむ
 愛の羽根己が心をのぞきみる
 隣りの児百舌鳥の如くに作り唄
 月光の鍵盤の上滑りゆく
 千羽鶴色なき風の揺らしをる
 急ぐまいほほづきの芯ほぐしをり
 仏性やこの秋草の穂先に
 秋隣藻屑のり来る秋思かな
 秋遍路自分の歩幅で今生きる

三木 亨
 阪倉 孝子
 出利 葉孝
 中 貞子
 久保 夢女
 竹村 淳
 井上 静子
 中西 厚子
 阿部さちよ
 柴田 靖子
 高野 昌代
 橋本 順子
 中島 昌子
 時澤 藍
 杉原ツタ子
 山田 佳子
 田中美恵子

槐集

高橋将夫選

黎明の露それぞれに真あり

守口 三木 亨

白ワイン満たすグラスに秋の色
古着屋で羽織る物みる秋の蠅
なかんづく末期の水は爽やかに
この星も地軸かたむけ秋思かな
晩年のマニユアルはなし鰻跳ねる
鱗雲人魚になりてもぐりけり
月光の森閑たるや車椅子
葉月潮まどろみへ来る月の舟
天界の声を聞きたき雁月夜
露草は空の青さを超える碧
薄原奈良から三重へ藩越ゆる
白毫寺萩のうねりや浄土坂
ペーシ繰るかさかさかと初秋かな
鰯雲宇宙の綱は大漁なり

枚方 阪倉 孝子

大阪 出利葉孝

農耕の血の脈脈と稲の花

枚方 中 貞子

はな丸をどの子にあげよ赤とんぼ
烏瓜の花に秘めたる紅さかな
爪紅や憂きこと忘れ生きんとす
わが居場所ありしと思ふ花野かな
えいままよ踊る阿保となり弾む
鰯跳ぶや己が世界を振り切つて
青蜜柑酸っぱい口が物を言ふ
若しや凶若しくは吉か秋の蛇
一声はあの梢なり小鳥来る
鋏の柄を立つれば止まる赤とんぼ
土手刈りて彼岸花待つ葛城御所
君の項撫づれば悲鳴猫じやらし
明星や消ゆるまに刈る夏の草
ゆく夏の海を見ている子供等よ

八尾 竹村 淳

竹原 久保 夢女